



yamagata monogatari やまがたモノガタリ

もく せい こ ま 木製独楽

子どもたちに人気の
木製独楽づくりについて
日本一の生産量を誇る
木地玩具蔦屋さんから
話をお聞きしました。

生産量は1年間に約5万個

蔦屋の初代、蔦作蔵氏が、こけしの里である宮城県白石市弥治郎で修業し、大正2年に自作のこけし、木製の器や独楽、おもちゃなどを販売するおみやげ店を、米沢市小野川温泉に開業したのが始まりです。一人の職人が手がけていた木工加工、色付け、組み立ての工程をいち早く分業制にして作業の効率を高め、子どもがお小遣いで買えるよう安く販売しました。最も多いときで年間約10万個、現在は約5万個を生産し、木製独楽の生産量は日本一です。



貴重な木を無駄にしない

昭和時代になってプラスチックやブリキでできた人形やおもちゃが作られ、木製製品の人気は落ちました。何とか人気を復活させたいと、独楽の回転を利用したカラクリおもちゃを数多く考案しました。独楽に適さない材料も部品として生かします。また、独楽の大きさを材料の太さに合わせて細かく分け、貴重な資源である木を決して無駄にしないように心がけています。独楽は200種類、からくり玩具やダルマ落としなどで80種類もの製品を作っています。



たの 楽しく、癒される製品づくり

新製品「飾り独楽」は、デザイナーと組んで開発しました。高畠町出身の童話作家・浜田広介の「泣いた赤おに」から考えた「ひねり独楽」の赤おに・青おにと、「逆立ち独楽」のこけしとダルマがあり、とても好評です。木に温もりがあるのは、森の精霊が宿り、長い年月、太陽のエネルギーを浴びて育ったからとの思いで作っています。伝統的なこけしを手がける一方で、自由な発想で多くの人が遊んで楽しく、見て癒される木製のおもちゃを作り続けています。



木地玩具蔦屋(米沢市)さんからのメッセージ

40年以上、独楽や木製のおもちゃのことを考え、寝るときも浮かんだアイデアを書き留められるよう、枕元にメモを置いてあります。好きなことを一生懸命続けることが、大切だと思っています。
☎0238-32-2600



お話をお聞きした
蔦 文男さん

こうして作っています。

①置賜地域周辺の山林に自生する「イタヤカエデ」を材料に、作る独楽の大きさに合わせて無駄が出ないように輪切りにします。

②ろくろにと取り付けてまわしながら、ぼろじょう棒状のかんなで独楽の形に削ります。芯の位置がはっきりした木が、よく回る独楽になります。

③形が出来上がったら顔料で色を付け、別に制作した芯棒を入れて完成です。黄色を取り入れて塗るのが蔦屋の独楽の特徴です。

やまがたモノガタリ・・・「山形県産品愛用運動」参加企業が製造している県産品を紹介しています。

山形県産品愛用運動 [検索](#)

